

私の老後の趣味

生まれた環境・・・土いじり

奥野勝己（近江八幡市出身・さいたま市在住）

蒲生郡土田町新田（現・近江八幡市土田町）が生まれ故郷、JR 八幡駅から歩いて10分位で現在は沢山の個人住宅が建ちコンビニやレストランなどの店舗も出来、昔の田園風景がおしゃれな都市と変わってしまいました。

当時、近江八幡はお城を中心とした城下町で繁華街は上筋や京街道と JR 駅から離れていました。駅の周りは何もなく水田の中に小さな木造駅舎があり私の育った土田は駅近くでしたが・土・田と町名通り周り一面田んぼで、所どころ小さな森・竹藪また農業用の水溜沼があり小川が張り巡らしたのどかな田園でした。その小川で魚（ヘラブナ・ぼてじゃこ・ナマズ等）つりしたことが懐かしく思い出されます。

田んぼ仕事の合間に10本ほどのノミ竿（細い竹の手作り竿）にミミズを付け極秘の穴場（柳の木の根っこが川に張り出している場所）にハメておき1時間間隔くらいで見に行くとガンゾウ（ヘラブナ）やナマズ・ギギがかかっており、その収穫が夜のおかずになりました。たまにウナギがかかりその夜は豪華蒲焼だった懐かしい思い出です。

そんな環境で育った私には土仕事・農作業は生活の一部、両親兄弟はもとより隣近所親戚すべてが農業・土いじりの生活環境でした。

私が生まれたのは（昭和18年7月）戦争半ばです。

B29が八日市の飛行場襲撃時、母は田んぼの草取りの最中、空襲警報発令時身重（ちょうど私が臨月でおなかのいた時だそうです）の母は近くの橋の下に半身水につかりながら逃げ隠れたそうです。空襲警報も終わりそのショックで私は生まれたそうです。生前父母は私がそんな環境でも立派に育った故に「お前はどんな環境でも生き抜ける力がある」とよく言われました。

戦争も終わり農家・特にコメ農家は主のコメの裏作に菜種・麦（大麦、小麦、ビール麦）等を作り一年中暇なく忙しく、子供心に将来農業は絶対やらないと心に決めていました。

18歳で就職・憧れの東京に出て最初は倉庫での荷造り
菰（藁を編んだもの）荒縄での梱包作業、嫌っていた滋賀での百姓の延長・・・
都会から就職した同期生よりも菰・荒縄・鎌は使い慣れており優位ではあったが大きなショックでした。

その後、販売や商品部（仕入れ）などを経験し65歳、めでたく定年。

定年後の過ごし方を考えた時、残る人生自分の好きな道・趣味で・・・と考えた

が、なかなか見つからない・下手なゴルフ・好きなカラオケ・・・なかなか行き着かない。

ゴルフも誘われれば・・・カラオケも自分一人では・・・率先して参加することなく、すべて中途半端な始末でした。

そんな中、50歳頃から近くに住む同じ会社の上司が自分の借りている畑が広すぎて半分やらないかと持ちかけられ、休日の運動の為と夏野菜を植えたのが家庭菜園（畑仕事）の始まり、やりだすと収穫が楽しみ、畑で熟れたトマトや取り立てのキュウリやナスのみずみずしく甘い味、子供のころ畑で熟れたトマトの丸かじりの郷愁、欲が出て30坪ほどの畑に生姜、ジャガイモ、玉ねぎ・・・等どんどん種類が増えだした。

その先輩も不慮の事故でこの世を去り今では先輩がやっていた場所すべて引き継ぎ約100坪程の畑を管理するまでになった。

百姓（家庭菜園）は一年で終わることが難しい仕事、昨年の秋植えた玉ねぎやそら豆、えんどう豆等が今年の春収穫、又春植えたトマト、茄子が夏に収穫、夏蒔いた白菜、キャベツ、大根が秋に収穫又、夏蒔いた玉ねぎの苗を秋に植える・・・すべて先々の計画が必要であり相当好きものでなければこの仕事作業は続かない。自分で苦にならなくなった今、始めて自分の趣味は土いじり（家庭菜園）であることを知った。

子供の時あれほど嫌っていた農作業が今では趣味とは・・・そんなものなのかな・・・定年を迎えこれから先は自分の趣味を生かそう・・・と真剣に考えた時なかなか見当たらず。過ぎてみて初めて没頭できる「土いじり」が自分の趣味であることに気が付いた。

但し生まれた環境、育った環境は大きな影響とを感じる。

子供の頃、親から押し付けられた農作業が嫌でサラリーマン生活に入り定年後その嫌だった農作業に何の抵抗もなく入り込み今はのめりこむ姿・・・

現在は・トマト・キュウリ・茄子・モロッコインゲン・スイカ・かぼちゃなどの夏野菜にのめりこんでいます。子供を育てるごとく毎日の成長が楽しみで6月に入ると3月に植えたジャガイモの収穫・ジャガイモが終わるとネギの植え替え、夏野菜が終わると秋野菜の種まき、サトイモ・落花生・しょうがなどの収穫と一年中、大変忙しく歳とることを忘れ・頭・身体を使っています。

これも商売でなく趣味の世界での農作業ゆえ頑張れるのでしょうね。

特に収穫した材料で自分が料理して晩酌をする最高の幸せを満喫しています。

今年はそら豆が豊作、晩酌が進みました。

又、取れた野菜を隣近所に配り、おせじでの褒め言葉に心うきうきしている老後生活です。